

令和6年2月19日

令和6年

第2回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和6年2月19日（月曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史	教育長
三 留 利 夫 委 員	
弘 瀬 知江子 委 員	教育長職務代理者
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	

2 出席職員（12名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	田 中 佑 典
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）	長 岡 誠
学務課長	大 竹 豊 和
指導課長	細 田 真 司
指導企画担当課長	木 下 健太郎
学校支援担当課長	鈴 木 啓 介
教育センター所長	早 田 由香吏
大田図書館長	後 藤 清

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 議案審議

ものづくり教育・学習フォーラム出品作品の展示について

~~~~~

(午後 2 時 00 分開会)

○教育長

ただいまから、令和 6 年第 2 回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

それでは、大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に弘瀬委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。

続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

4 点報告いたします。

まず 1 点目は、研究奨励校における研究発表です。1 月 26 日、南蒲小学校の研究発表会がありました。研究主題は、「自尊感情を高めるキャリア教育を目指して～基礎的・汎用的能力を伸ばす指導の工夫～」です。

授業の公開では、学級会など、子どもたちが積極的に考えを出し合い、互いを認め合う活動がなされていて、自尊感情が高まっているように感じました。友だちとの関わりの中で、自尊感情が高まることが学校生活においては、とても子どもたちにとって大切なことを再認識させていただきました。

また、1 月 26 日には、大森第六中学校の研究発表会がありました。研究主題は、「持続可能な社会を構築する担い手の育成を目指して～より良い未来を創造するコンピテンシーとは～」です。生徒たちが、食品ロス問題、平和問題、環境・気候変動問題について、1 年から 3 年の学年縦割りのグループをつくって、課題解決に向けたグループディスカッションを行い、シビック・アクションとして具体的な行動に取り組んでいくという学びでございますが、大変に大切な取組であり、生徒の主体的な学習の取組の様子は、これからの

学校教育を切り替えていく大変重要なものだと感心いたしました。

次に、1月30日には、蓮沼中学校の研究発表会がありました。研究主題は、「いじめの未然防止、不登校（傾向）のさらなる対応のために、協働学習を通した学び合う教室づくり」というものです。

公開授業では、グループディスカッションなど、中学生が学び合っている姿が印象的でした。研究の動機は、不登校や不適應を防ごうというものから始まっておりますけれども、生徒たちが共に学び合う機会を増やして、生徒たちが居場所や出番のある授業づくりを通して、学校で居心地が良く、自己実現を図る場にしていくという取組、これからの中学校教育においても、本当に大切な問題だと感じました。

次に、2月5日は、相生小学校の研究発表会がありました。研究主題は、「児童一人一人の他者への働きかけと、自己への働きかけの育成～道徳科、特別活動、体育科の指導を通して～」です。児童同士の関わりの中で、自分の良さに気づき、それを伸ばそうとする力と、相手を思いやり認めようとする力を共に育てていこうとする実践で、学級会や道徳・体育の中で、その実践の姿を見せていただきました。

以上、4校の研究発表の取組がありましたけれども、その取組を見ていると、学校という集団、友だちの中で関わりや多様性を大切にしながら、その中で個性を伸ばしていくと。そのような生徒の姿が見られたことが、大変大切であると思いました。これからの学校教育の姿を切り開いていくものだと思います。

学校の教員集団が目指すこどもの像を実現するために、知恵を出し合って行っていく校内研究というものが、やはり学校の教育力を高める上でも、大変大切だというふうに思いました。教師やこどもが、大きく育つ大変重要な施策であると思います。この校内研究というものは、教育委員会として、さらに力を入れていきたいというふうに思ったところでございます。

2点目は、大森第一小学校の90周年が、1月27日に行われました。式典と祝賀会、両方に参加させていただきました。

大森第一小学校といえば、海苔の生産の歴史があって、式典・祝賀会の会場の体育館の天井には、波を表すような青い布があって、海を表しているのかなと思いました。

それから、周年の記念の寄贈のどん帳、舞台のサイドのまた上の上ですね。それが深い青色で、やはり海をイメージしているのかなというふうに思いました。他の学校には、そういう色彩が見られないものであって、印象的でした。

式典に6年生も一生懸命に参加して、お祝いの呼びかけも大変立派でした。このように、学校の周年行事は、地域の歴史や特色を再認識して、地域の方々とも交流する機会であるというふうに思います。こどもたちにとっても、学校をよって立つ地域を知る大切な行事であると感じました。

3点目のご報告は、1月27日の夕刻にあった六郷の多摩川河川敷であった花火大会です。今年、周年行事のあった高畑小学校、西六郷小学校、志茂田小学校のPTAの方々が、合同でこどもたちの思い出をつくらうということで、冬だったのですが、多摩川の河川敷で合同花火大会を開催いたしました。

当日は、たくさんの小学生やその家族の方が集まって、冬の花火を楽しみました。700発ほど花火が上がり、集まったこどもたちや家族の人たちも歓声を上げながら楽しんでい

ました。

私も、冬の花火というのは、空気が大変澄んでいるので、非常に色彩が鮮やかに感じました。とてもきれいなことに驚いたところです。天候の都合で2回ほど延期した末の3回目、ラストチャンスだったのですけれども、主催したPTAの方々は、非常にほっとしていたと思います。

周年のこういう行事をPTAが合同で行うということは、これまでなかったかと思いますが、新たな取組として意義があったと思います。火事、火が移ってしまうなど、冬は、ちょっと心配があつて、消防車などが出ておりましたが、苦労も多かったと思いますが、良い取組であったと思います。

最後に4点目、2月4日に行われました、おおた地球さんご賞の表彰式についてです。この事業は、区内在住の直木賞作家、安部龍太郎さんのお声がけで、こどもたちが地球の環境保全や環境活動に対する考えや思いを作文に書くという取組です。このたび大田区では、第1回の取組でしたが、教育委員会も共催という形で参加させていただきました。

作品は、小学校110点、中学校364点の応募があり、その中でもすぐれた作品が表彰されました。その31の作品が、「第1回おおた地球さんご賞作品集」ということで出版され、刊行されたところでございます。

入賞した作品は、どれも環境問題に対する考えや取組がしっかり描かれており、大変意味があることだというふうに思いました。環境ばかりでなく様々な分野で、このこどもたちの考えや文章が表現される機会を広げていきたいと思ったところでございます。

私からの報告は以上でございます。何か、ただいまの説明に対しまして、ご意見・ご質問等がございましたら、お願いいたします。

### ○三留委員

教育長から話のあった、前回の定例会以降の研究発表会、それから、2月9日にあった文部科学省主催の市町村教育委員会協議会、12月15日に行われた、おおたの教育研究発表会に参加いたしましたので、私からの報告をいたします。

研究発表ですが、先ほど、教育長からもお話がありましたけれども、小学校2校、中学校2校の発表会に参加いたしました。それぞれの学校でしっかりとした考え方を持って、研究実践に取り組んでいるという感じがいたしました。

南蒲小学校は、大田区教育委員会のキャリア教育推進校で、キャリア教育の手引にある基礎的・汎用的能力について、南蒲小学校なりに解釈をして取り組んでおりました。

キャリア教育を踏まえた学級活動、生活科総合のカリキュラムマネジメントも進められていました。

授業は、「つかむ、探る、見つける、決める」の南蒲小学校独特の学習課程を基に進められていました。

特に、「決める」の自己決定の段階を重視しているようにも思いました。より良い自己決定に導き、基礎的・汎用的能力につなげようとしていると感じました。

大森第六中学校は、ここ数年、ユネスコスクール、ESD教育に取り組んでいる学校です。今回も、「持続可能な社会を構築する担い手の育成を目指して」をテーマとしての発表でした。

大森第六中学校の研究の特色は、六中式単元指導課程を設けていることです。指導案には、必ずE S Dにおける目標に関連する、考えさせたいSDG sの内容、国研が示した持続可能な社会づくりの構成概念との関係、育てたいE S Dの力と態度を必ず示していました。

さらに、単元のエッセンシャルクエスチョンを設定していることが大きな特色です。エッセンシャルクエスチョンとは、思考を刺激し、さらなる疑問を生む本質的で根源的な問いということで、単元を通してこの問いを生徒が意識して取り組むことで、その生徒なりのしつかりとした概念形成や実践的な態度が身に付くと感じました。中学校で、これだけ教科横断的に現代的な課題に取り組んでいる学校は、それほどないと感心いたしました。

蓮沼中学校は、「いじめの未然防止、不登校（傾向）生徒のさらなる対応のために」というテーマのもと、「協働学習を通した学び合う教室づくり」をサブテーマとして取り組んでおりました。協働学習により、居場所づくりや個々の満足感を得られるような取組をしています。

当日、それぞれの教室の授業では、どの学級でも適切な学習課題が示され、それをもとに、グループでの協働学習が展開されていました。

研究発表では、教わる授業から学び合う授業へ変わっていることや、教師が生徒の学習を支える側になっているという話がありましたが、着実に授業改善が進んでいると感じました。

相生小学校は、「児童一人一人の他者へのはたらきかけと自己へのはたらきかけの育成」というテーマで、体育、特別活動、道徳の指導の研究をしておりました。授業実践にあたっては、それぞれの教科等で他者への働きかけと自己への働きかけの手だてが明確にされ、それに基づいて学習が展開されておりました。きちんとした信念や考え方のもと、手だてもしつかりしていると感じました。

研究の成果の発表では、他者への働きかけと自己への働き方を意識した取組を行うことで、児童の自尊感情や自己肯定感を高めたり、相手を思いやる態度を育成したりすることができたとしています。自他を認め合うことを念頭にした地道な取組の成果を感じました。

次に、2月9日にあった文部科学省主催の市町村教育委員会研究協議会について、報告いたします。

初めに、初等・中等教育施策の動向についてということで、初等教育企画課長から説明がありました。膨大な資料から、教師を取り巻く環境整備、G I G Aスクール構想の推進、不登校生徒、児童・生徒への支援、いじめ対策などについての説明がありました。

その後、私は、学校における働き方改革の分科会に参加いたしました。担当の方から、文科省の取り組みについて説明があった後、各市区町村の教育委員の皆さんと協議をいたしました。各市区町村で学校業務の効率化、組織体制の改善、教職員の意識改革などに関わって、様々な取組がなされていることを知り、勉強になりました。

人的支援については、私が参加した市区町村の中では、大田区が突出してなされていました。手厚い人的支援は、教員の働き方の改善につながっており、区の充実した施策は、学校からも好評と聞いております。

最後は、2月15日に行われたおおたの教育研究発表会についてです。今回は、全体会・分科会でコミュニティ・スクールを置いている学校14校の発表がありました。テー

マ別発表ということでしたが、私は、コミュニティ・スクールを導入としたことで、学校がどう変化したかという視点で話を聞かせていただきました。全体としては、どの学校も意欲的に取り組んでいるという印象でした。

成果として、イベント行事との関わり、ゲストティーチャー等の支援などが多く出されており、地域学校協働本部との一体的な取り組みが進んでいるということがうかがわれました。今回の発表の中で、「委員は、経営陣」「学校から地域へ」、「学校と地域の互恵性」「メンバーからの提案による改善」というような言葉が出されていて、今後、学校運営協議会が一層学校運営の改善に資するものになっていくという予感がいたしました。

それには、協議会委員の皆さんに出かけられるときに、なるべく学校の授業や教育活動を見ていただき、改善点等の指摘をいただけるような体制づくりが必要と思っております。これからのコミュニティ・スクールの一層の発展に期待しているところでございます。

#### ○教育長

ほかに。よろしいでしょうか。

#### ○高橋委員

私からは、3点ご報告いたします。

まず、2月15日のおおたの教育研究発表会に参加しました。コミュニティ・スクール導入校のうち8校の発表があって、充実した取組がされていることが理解できました。

児童・生徒も積極的に地域と関わり合う様子が分かり、地域と共にある学校との思いが強く感じられました。参加できたことを喜んでおります。

次に、2月9日の市町村教育委員会研究協議会ですが、全体会では、教育施策の動向について説明があり、その中で、学校部活動の地域連携や、地域クラブ活動への移行については、新潟県の進捗状況と長崎県長与町の段階的な移行について紹介されました。

分科会では、部活動の在り方についてスポーツ庁から説明があり、その後、グループ協議が行われました。

私のグループは、松戸市、和歌山市、草加市、宇都宮市、私と5人でした。事前に資料を受け取っていたので、協議は、とてもスムーズでした。部員数減により、合同チームを結成したり、協会連盟による取組の実施などを検討している。段階的に取り組むとして、休日の部活動の一つ以上地域クラブ活動にするなど、これからの課題として考えていると感じられました。

次に、研究発表会3校についてです。1月26日は、南蒲小学校で「自尊感情を高めるキャリア教育を目指して」という研究主題をもとに、ワークシートの活用、工夫など、自分と向き合いながら成長する楽しさに気付いたり、周りの人から学び、自分力を向上させる取組が見られました。

掲示物が教室内、廊下に多くあり、個人目標、家の人からの願い、学級の歩み、成果など、いつでも確認できるようにしてありました。議題箱も置いてあり、話し合いたいことなど、投函できるようになっていました。成果として、自発的な活動が活発に見られるようになったとありました。

蓮沼中学校、1月30日です。「いじめの未然防止、不登校生徒のさらなる対応のために」

という研究主題をもとに、協働学習を通じた学び合う教室づくりの授業を参観いたしました。生徒が、ペアやグループでしっかり学習する様子は、まさに学び合う教室になっていました。先生と生徒のやり取り、生徒がグループで意見を出し合い、まとめる様子が楽しそうにも見られました。

相生小学校は、2月5日でした。「児童一人一人の他者へのはたらきかけ、自己への働きかけの育成、道徳、特別活動、体育の指導を通して」という内容でした。ふわふわ言葉とか、ほめほめシャワータイムなど、分かりやすく学べる工夫がされていました。

自分の気持ちに色を付けたり、特別活動では、司会グループが役割分担して話し合いを進めていました。休みの児童の意見も反映するよう、先生が提案して良かったです。他区では、声をかけ合ってプレーする様子が見られました。

#### ○教育長

ほかに、よろしいでしょうか。

#### ○北内委員

私もおたの教育研究発表会（2月15日、カムカム新蒲田）に出席させていただきました。CS導入校によるテーマ別の発表がありました。

まず、テーマ「未来社会を生きる力の育成」では、入新井第二小学校、大森第三中学校、中萩中小学校、出雲小学校の取り組みを聞かせていただきました。

そして、テーマ「国際都市おたを担う人材の育成」では、羽田小学校、大森第二中学校、テーマ「安全・安心な教育環境づくり」では、東糞谷小学校、道塚小学校、「コミュニティの核となる学校づくり」では、久原小学校、雪谷中学校、清水窪小学校、志茂田小学校の発表を聞かせていただきました。

各校からそれぞれ個性的な取り組みが発表されました。どの取り組みにも共通していたのですが、地域と学校で互恵関係を築かれていたことです。

また、教職員が異動になっても、その地域の教育・文化が継承される仕組みをきちんとつくられていたことです。

当日、会場には、各地域の自治会長をはじめ、PTA、保護者、教職員の方々が出席されていました。会場の雰囲気がいへん和やかで、お互いに挨拶されている姿を見てみると、本区の場合、特に、もともと地域力があるので、このCS導入により、さらに地域力を強固にすると確信しました。

次に、1月29日、私も大森第六中学校の研究発表会に出席させていただきました。研究テーマは、「持続可能な社会を構築する担い手の育成を目指して～よりよい未来を創造するコンピテンシーとは～」でした。各教科SDGsを題材に授業は進められていました。

例えば、数学科の一次関数の授業では、二酸化炭素排出量の将来予測を計算することに取り組んでいました。

また、生徒会が学校の取組として、三つの題材、平和・食品ロス・気候変動について、シビック・アクションとして実行している発表がありました。こどものときからグローバルな視点で物事を考える習慣を身につけてくださっていました。

名古屋大学名誉教授 安彦先生の講演では、教育とは、単に教えることではなく、児



童・生徒、こどもたちを自立させることである。そのためには、受験のための勉強ではない教育に、保護者の理解も必要であるというお言葉があり、共感いたしました。

また、先生は、こどもたちのSDGsに関わる問いやシビック・アクションに、大人たちは真面目に正しく反応しているか問い直す必要があるとも言われました。私たち自身も、あらためて見つめ直す必要があると思いました。

最後に1月27日、土曜日、夕方、多摩川緑地サッカー場付近で開催された花火大会に出席させていただきました。教育長からもありましたが、高畑小学校、西六郷小学校、新宿小学校のPTAさんたちが協力して開催してくださいました。

当日は大変な人出で、学校のイベントでは、絶対にできないイベントだと思いました。盛大な花火大会でした。こどもたちは、特に低学年のこどもたちは、5年ぶりに花火を見るイベントとなったかもしれません。多少、安全面にリスクも感じたのですが、無事に開催することができました。関係者の皆さま、お疲れさまでした。こどもたちのためにありがとうございます。

#### ○深澤委員

私は、先ほど話に出ている蓮沼中学校の研究発表会に参加いたしました。蓮沼中学校では、生徒のための学校、学ぶことが楽しい学校を目指して、平成27年度から小グループによる協働学習を行ってきており、今回の研究発表は、長年にわたる地道な活動に基づき、さらに、協働学習がいじめの未然防止、不登校生徒への有効な取組となっているかという研究でした。

そして、協働学習は、特に、学校不適応傾向のあった生徒に対して、学校適応感を高めるために有効であったとの報告がなされました。協働学習で大切なのは2点あり、その一つ目は、相手が話しているのを聞く、待つということです。周りが聞いてくれる安心感があれば、しゃべるのが苦手な生徒でも発言しようという気持ちになる。周りが待つくれるという安心感があれば、何か話さなければならぬというプレッシャーから解放される。そういう経験をたくさんすることで、その生徒の学校適応感が安定していくということです。

二つ目は、協働学習をただの発表会の場で終わらせてしまうのではなく、先生が生徒たちの考えの違いをつないでいくという作業が大切であるということです。協働学習の良いところは、お互いの考えを知ることができる点ですが、ただ違う考えがあることを学ぶことで終わってしまっただけではもったいないわけです。他人の違う考えを先生がつないでいくことで、自分の考えに持ち帰っていく、そういう作業があつて、さらに発展的な学習につながっていくということでした。

そういう意味で、先生に期待される役割は、非常に大きいのですが、参加された先生からは、様々な的確な質問がなされていました。本研究発表を生かして、これからも協働学習のより良い活用に期待しております。

#### ○弘瀬委員

私は、研究発表会に参加することはできませんでした。

教育長並びに教育委員の皆様の話聞いていまして、各学校で子どもたちの教育が受身ではなく、自ら進んで参加することの重要性、ついて十分やっていると感じました。素晴らしい各学校の取組に、今後時間がありましたらぜひ参加したいと思いました。

それから、8日に教育実践功労者表彰がありました。その後に懇談会があって、各先生方は素晴らしい教育実践方法をお持ちで、今後、継承されていけばいいと感じました。研究発表がそのまま終わってしまうのは、残念だと思いました。

それから、最後に、ぜひ校長会でお願いしていただきたいと思っています。風疹抗体価の検査を勧めていただきたいと思っています。風疹の抗体価の少ない年齢層に対し区市町村からクーポン券を発送しております。そのクーポンを受け取った先生方は、ぜひ、風疹の抗体価を測って、抗体価が少なければ、風疹の予防接種を受けてほしいのです。

なぜなら、先天性風疹症候群という疾患があります。胎児が風疹ウイルスに感染すると先天性心疾患、難聴、などいろんな障害を持って生まれて来る事があります。妊婦さんが風疹にかからないためには、その周りの人たちが風疹にかからないことで妊婦さんを助けたいのでぜひ、校長会でも、勧めてください。よろしく願いいたします。

#### ○教育長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

冒頭の報告の中で、花火の3校があるのですが、志茂田小学校と言ってしまったのですが、あれは新宿小学校の間違いでしたので、訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は、「部課長の報告事項」でございます。

#### ○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

#### ○指導課長

私から、ものづくり教育・学習フォーラムの出品作品の展示について、訂正させていただきます点がありますので、報告させていただきます。

令和6年1月25日、木曜日開催の令和6年第1回教育委員会定例会にて、今年度のものづくり教育・学習フォーラムの開催報告をいたしました。1点、訂正させていただきます。

報告後、小黒教育長より、ものづくり協議会で作られた作品等は、どこかに展示されているのかというご質問があり、私からは、今のところ、学校のほうにそれぞれお戻ししており、多くの方に見ていただけるような機会を今後、検討していくと回答させていただいたところでございます。

この定例会後、もう一度確認したところ、ものづくり協議会で生徒が作り上げた作品は、

大田区教育研究会、中学校技術家庭研究部が主体となり、中学校長会と連携し、毎年、中学校技術家庭科作品展で特設コーナーを設け、展示されていることが分かりましたので、訂正させていただきます。

今年度の中学校技術・家庭科作品展は、令和6年1月31日水曜日から2月5日までの6日間、池上会館展示ホールにて開催しました。ものづくり協議会の作品は、その専用の展示コーナーにおいて、木工部門、ソーイング部門から、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点、技術賞2点、アイデア賞2点、計14点が提示されておりました。

指導課としても、展示の様子を確認に行ったところ、中学校の代表生徒がアイデアを練り、練習を積み重ねた努力の成果が伝わってくるすばらしい展示となっておりました。

6日間で2,000人の参加者がいたということで、多くの方に見ていただけたかなというふうに思っているところでございます。

今後も、こういった区の教育研究会の研究部会や校長会と連携しながら、こちらのほうの展示を続けていきたいと考えているところでございます。

#### ○教育長

よろしいでしょうか。

それでは、ほかにご意見・ご質問は、ございますでしょうか。

それでは、これをもちまして、令和6年第2回教育委員会定例会を閉会とさせていただきます。

令和6年 第2回 教育委員会 定例会 2月19日(月) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（教育施設調整担当）

学務課長

指導課長                      ものづくり教育・学習フォーラム出品作品の展示について

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事（法務担当）

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和6年2月19日

令和6年第2回教育委員会定例会日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項